

ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n



七夕にきらめくヴァイオリンの音色

「ラスカホール」の空間に
ヴァイオリンのきらびやかな音が響きわたる

平塚駅の商業施設と音楽を学ぶ学生たちが
七夕にあわせて開いた「きらめきコンサート」

幅広い世代の多くの市民が
ステージの演奏や歌声に酔いしれる

7月7日「ラスカ七夕★きらめきコンサート」

02-03

第6回“ちえん”をつくる人々
市民や自治体と共に地域文化資源(屋外彫刻)に関する保存・活用の活性化事業

04-05

TOKAI探訪記
Vol.6 食べて健康!学食でQOL向上!

第六回 ちえん川柳

06-07

つかのはらいそ通信
大学と地域の連携活動をご紹介

International Students' けしゅく Life
かわいくて、しっかり者! 医療技術者になることを夢見る可憐な少女

08

学生街のトマソン
掲示門や東門へ向かう、崖沿いの近道

Information

TAKE FREE

October 2018

Vol.6

東海大学地域連携紙「ちえん」(湘南版) Vol.6
発行日/2018年10月12日
発行/東海大学地域連携センター
後援/平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町



大学を架け橋に行政と市民と作家をつなぐ 市民の共有財産を守り、生かす

第6回 “ちえん”をつくる人々
「市民や自治体と共に地域文化資源(野外彫刻)に関する保存・活用の活性化事業」
「彫刻を触る☆体験ツアー」
「ユニバーサル・ミュージアム関連シンポジウム」

日常生活にゆとりや安らぎ、潤いをもたらすまちづくりを目指して置かれた野外彫刻。しかし、設置から数十年を経た今、周辺環境の変化による移設や撤去、経年劣化への対応など、自治体はさまざまな課題に直面している。市民の共有財産であり文化資源である野外彫刻を、どのように保存し活用するべきなのか? その魅力を人々に再認識してもらうために何をしたらよいのか? —— 学芸員の育成に携わる大学の研究者と文化振興行政を担当する自治体職員、ボランティアで彫刻を見守る市民らが、タッグを組んで立ち上がった。

大学が架け橋となって住民参加型の野外彫刻保存文化を育む



東海大学課程資格教育センター 篠原聰准教授

東海大学湘南キャンパス内の野外彫刻をメンテナンスする「彫刻を触る☆体験ツアー」は2014年に開始しました。博物館や美術館の作品だけでなく、地域や野外の文化資源も大切に保存するべきだと思ったのがきっかけです。水洗いしてワックスをかける彫刻のメンテナンスは、作品に直に触れられる

貴重な機会。「保存」だけでなく、触ることで作品の魅力を感じる「活用」も体験できます。また、「触文化」を提唱する国立民族学博物館准教授の広瀬浩二郎さんにご協力いただき=右ページ記事参照、年齢や性別、障がいの有無を問わず誰もが楽しめる「ユニバーサル・ミュージアム」をテーマとしたシンポジウムや、作品を手で触って鑑賞するイベントも開催しました。

この活動の中で、キャンパス近隣の秦野市や平塚市、小田原市などの自治体がさまざまな彫刻関連イベントを実施していることを知りました。特に秦野市は38点の野外彫刻を有し「彫刻のあるまちづくり事業」に取り組んでいて、「彫刻愛し隊」という市民ボランティアも活動している。そこで、この事業に携わる皆さんにシンポジウムや体験ツアーに参加していただき、交流を深めてきました。その過程で、野外彫刻の保存と活用が、各自治体の大きな課題となっていることを認識しました。

厳しい現実ですが、野外彫刻はいつか滅びる運命です。都市計画の変更や劣化による倒壊の危険性といった理由で、撤去される場合もあるでしょう。しかし、たとえ作品の所有者が自治体でも、作家や市民の思いは尊重しなければなりません。大切なのは、自治体と作家と市民がじっくりと話し合うことなのです。

大学が架け橋になり、野外彫刻のあり方について

皆で考えていくきっかけをつくれればいいと考えています。研究機関として保存・修復にかかる研究を進め、SNSを使った情報発信も実現させたい。教育機関としては、学生や高校生だけでなく、小中学生にもメンテナンスを体験してもらい、早くから野外彫刻を大切にする習慣を身につけてほしいとも思っています。

今は、「地域連携による野外彫刻メンテナンス実行委員会(仮称)」の来年度の立ち上げを目指しています。人々が公共の場に設置された野外彫刻を愛し、手をかけて守り継いでいく——地域連携でそうした文化を育み、世界へ向けて発信できたら素晴らしいですね。



高校生や大学生、地域住民がブロンズ彫刻のメンテナンスを体験。
12月8日には今年度第2回を秦野市で開催予定

野外彫刻を好きになると、住む楽しさが増える



ウォーキングをしながら秦野市内の野外彫刻を巡った

私が「彫刻愛し隊員」になったのは4年ほど前。秦野市が主催した「野外彫刻鑑賞アートウォーキング」に参加したことがきっかけでした。街のことを知れば住む楽しさが増えると思って出かけたのですが、いろいろな発見があって本当にわくわくしました。

「隊員」の主な仕事は野外彫刻の点検と清掃です。ほこりや泥などの汚れを落とし、周囲のゴミを拾い、雑草を取る。傷があったり木の枝が茂って作品にかぶさっていたりした場合には、すぐに市役所

に報告します。今は、自分が住んでいる渋沢地区周辺の7点を担当しています。

初めは人目が気になるやら恥ずかしいやらで、とても緊張しました。「そんなところで何をしているの?」なんて友達にびっくりされたり、警察官に不審がられたり(笑)。警察の方に「ボランティアで彫刻を見回っている」と説明したら、「ご苦労さまです。市民の方がこんなふうに協力しているのですね」と、すごく感心してねぎらってくださって、うれしかったですね。掃除したり点検したりしていると、彫刻に愛着がわくんです。「MY FAMILY」という作品は、用事がなくても立ち寄って撫でています。

現在は、「秦野市観光ボランティアの会」のメンバーとして、彫刻を巡るハイキングのガイドもしています。それ以外のときにも、私が「愛し隊員」と知っている人から彫刻についていろいろと聞かれますので、常に勉強していないといけません。東海大学が主催した「彫刻を触る☆体験ツアー」に参加したのもそうした理由からですが、専門的なメンテナンスや新しい鑑賞法を学ぶことができて、貴重な経験になりました。

彫刻について説明するときは、「私はこんなふうに思います、皆さんはいかがですか?」と問いかけるようにしています。作者の意図はもちろん



彫刻愛し隊員 戸口あや子さん

大切ですが、まずは自由に鑑賞してほしいんです。そして、彫刻の存在や魅力を知って、広めてほしい。たくさん的人が野外彫刻に興味を持ってくれたら、「愛し隊員」としてこんなにうれしいことはありません。

広域連携で彫刻の魅力を体感できるイベントを



秦野市役所市民部専任参事(生涯学習・文化振興政策を統括)
佐藤正男さん

秦野市の「彫刻のあるまちづくり事業」は、1985年に環境庁の快適環境都市「アメニティ・タウン」の指定を受けて策定した「秦野アメニティ・タウン計画」のシンボル事業の一つとしてスタートしました。87年の「丹沢野外彫刻展」に始まり、89年の「夢のかけ橋彫刻展」、93年の「ハミングティルしぶさわ彫刻展」、97年には「水とみどりの彫刻展」を開催。さらに、作家を中心とした市民組織の「まほろばアートフォーラム」を立ち上げ、彫刻作品への理解を高めるイベントも開きました。

公共空間の野外彫刻は市民の共有財産として守り引き継いでいかなければなりませんが、丹沢野外彫刻展から30年以上経過した今、その保存と活用は大きな課題です。また、東海大学主催の彫刻関連

シンポジウムに参加して、作家や市民とのコミュニケーションの大切さをあらためて認識しました。今後“知の拠点”である大学の協力を得ながら、同じ悩みを抱える市町村が連携し、作家や市民との対話や協働を通じて、課題の解決法を見出していくと考えています。

現在実施している野外彫刻の保存・活用の取り組みには、2004年に結成した「彫刻愛し隊」と、09年から開始した「野外彫刻鑑賞アートウォーキング」があります。「愛し隊員」の戸口さんは、「秦野市観光ボランティアの会」のメンバーでもあり、ガイドとしても野外彫刻の魅力を紹介してくれています。学びを社会に還元するという「知の循環」を実践されていてうれしいですね。こうした「市民力」には特に期待しています。

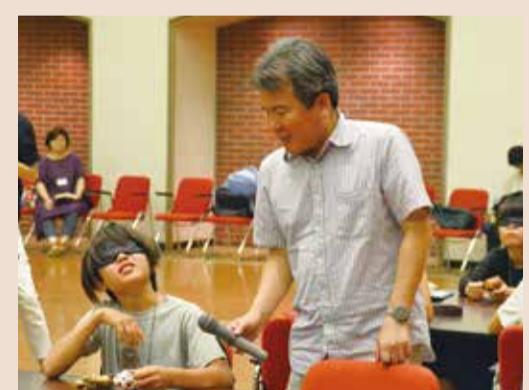
私は芸術を専門に学んだことはありません。市の職員となってから文化行政に携わり、担当だった丹沢野外彫刻展で知り合った作家たちと語り合う中で彫刻の魅力を体感してきました。篠原先生からお話をいただいている「地域連携による野外彫刻メンテナンス実行委員会(仮称)」では、私が体験したような彫刻の面白さを実感できるイベントも開きました。



佐藤さんが登壇した屋外彫刻の保存と活用に関する公開シンポジウム

いと思っています。さまざまな広域行政がありますが、彫刻をカギにした連携は、他ではまだないはずです。東海大学のリーダーシップのもと、“先駆け”として、ぜひ実現させたいですね。

「見て触って楽しむ博物館美術入門」で参加者にマイクを向ける広瀬氏(右)



「メンテナンスは、見るだけではわからない彫刻の魅力に気づく絶好のチャンス」と語る広瀬浩二郎氏。「彫刻を触る☆体験ツアー」でも、触る鑑賞の意義についてレクチャーした。作品の保存と活用の両方を実現する彫刻メンテナンスでは、直に作品に触ることで、制作者やモデルと対話し、質感やぬくもり、硬さ、ディテールをじっくりと味わえる。それは、誰もが楽しめる「ユニバーサル・ミュージアム」の実践でもある。彫刻メンテナンスを主軸とした野外彫刻の保存・活用プログラムは、「ユニバーサル・ミュージアム」の魅力を地域の人々に気づかせ、根づかせる第一歩になると期待されている。



つかのはらいそ通信

平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の3市1町（つか・の・はら・いそ）において実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

ひらつか

学生が現地調査 フィールドワーク「湘南いきもの楽校」



健康学部健康マネジメント学科では、春学期に開講した「フィールドワークA」の授業で「湘南いきもの楽校—素敵な未来を子どもたちに」など複数のプロジェクトを5月下旬から9月にかけて実施した。この授業は、健康を多目的にとらえるために学生が地域のフィールドを訪れ、問題を発見して解決するにはどうしたらいいかを考察し、実践していく選択科目。「湘南いきもの楽校」では、平塚市馬入川の水辺での「楽校」運営を基軸に、生息調査や水質調査などを行った。

夏休みにものつくり体験教室を開催

教育支援センター技術支援課が8月8日、湘南キャンパスで秦野市と伊勢原市内在住の小学5、6年生を対象に「ものつくり体験教室」を開いた。このイベントは、ものつくりを通じて理科への興味・関心を持ってもらうことを目的に毎年実施している。カラフルな人工イクラやスライム、真鍮やアルミニウムを削ったオリジナルのコマなど、子どもたちは技術職員に教わりながらものつくりに取り組み、「見たこともない機械を使うことができて面白かった」と話していた。



防災イベントに参加 3.11 生活復興支援プロジェクト



東海大学チャレンジセンター「3.11生活復興支援プロジェクト」が、8月18日に平塚市総合公園で開催された「平成30年度平塚市総合防災訓練」(主催:平塚市)に初めて参加した。東日本大震災当時や現在の東北の風景、同プロジェクトの活動の様子を写真で説明し、資料の配布などを行った。その他、2017年度の活動内容をまとめた活動紹介パネルや、被災地住民へのアンケートをもとに作成した防災に関するパネルの展示などを行い、ブースには53名が来場した。

はだの

エコカー教室で 最先端の技術を紹介



東海大学チャレンジセンター「ライトパワープロジェクト」のソーラーカーチームが7月11日、湘南キャンパスで秦野市立大根小学校の4年生約100名を対象に「エコカー教室」を開いた。ソーラーカー「2017年型 Tokaiチャレンジャー」と電気自動車「ファラデーマジック2」の実機を紹介。プロジェクトメンバーが、少ない電力で走行距離を伸ばす工夫などを解説すると、児童たちからは「何の素材で作られているの?」「この部品は何のためについているの?」といった多くの質問が寄せられた。

健康維持につながる大学と地域の交流の場

健康推進センター湘南健康推進室が7月27日、TOKAIクロスクエアで地域連携イベント「にこにこ健康相談」を開催。東海大学の地域への貢献活動として2004年度の「サテライトオフィス地域交流センター」開設時より実施しており、毎年恒例となっている。当日は保健師への健康相談や血圧測定、熱中症予防を呼びかける展示のほか、脳年齢を診断する簡易PCゲーム(協力:大根・鶴巻地域高齢者支援センター)も行われた。健康維持にもつながる交流の場として、地域住民に定着している。



子どもたちを支援「夏休み宿題サポートプロジェクト」



東海大学チャレンジセンター「Tokai International Communication Club」が8月21日から23日まで、秦野南公民館で「夏休み宿題サポートプロジェクト」を実施した。同プロジェクトでは、秦野市周辺に住む外国につながりのある子どもたち対象の学習支援活動「にこティー教室」を週2回開催しており、夏季休暇には宿題をサポートする特別教室を実施している。子どもたちはプロジェクトメンバーに文章の組み立て方や日本語での言い回しを教わり、読書感想文や実験レポート、日記の作成に取り組んだ。

いせはら

ドクターヘリ見学会 救急医療の現場を間近に

医学部付属病院が8月7日と20日、県内の小中学生と高校生にドクターヘリへの理解を深めてもらおうと「ドクターヘリ見学会」を伊勢原キャンパスで開催。実際にドクターヘリに搭乗する救急医と看護師が、どのような患者にも適切に対応できるよう初期診療と緊急処置のスペシャリストとして日々尽力していることを紹介した。その後、参加者はドクターヘリの格納庫に移動し、ヘリの操縦や保守管理を請け負う朝日航洋株式会社の操縦士と整備士らの説明を受けながら機体を見学した。



空き家に風車を 地域住民と学生が制作



工学部建築学科の学生が参加するボランティアグループ「CoCoてらし隊」が8月23日、伊勢原市愛甲原住宅のコミュニティースペース「CoCoてらす」で「空き家の庭と広場に、風車の花を咲かせよう!」を開催した。同グループは昨年度から1軒の空き家をモデルケースに利活用方法を探ってきた。今回は、子どもたちや、CoCoてらすのデイサービスに通うお年寄りらが参加。学生たちが作成したペットボトルの風車に色を塗り、シールで飾りつけ、東京工芸大学の学生らが芯棒に取り付けて庭と周囲の広場に彩りを添えた。

おおいそ

健康寿命を延ばす「おおいそアンチロコモ教室」

6月13、14日に大磯町内で「おおいそアンチロコモ教室」の大測定会が開かれた。経済産業省委託事業「平成27年度健康寿命延伸産業創出推進事業」の一環で、ロコモティブシンドローム対策を目的に大磯町、株式会社アルケアと連携して実施している。当日は、アルケアの健康運動指導士とともに、体育学部生涯スポーツ学科の野坂教授と、体育学部、大学院体育学研究科の学生が運営スタッフとして参加。2日間で64名の地域住民が訪れ、学生たちが参加者の骨密度や歩行能力などを計測し、体操やストレッチをレクチャーした。



学生4コマ漫画 作・青田みい
I・MA・DO・KI 第6回
セントメンタル



International Students' げしゅくLife

かわいくて、しっかり者! 医療技術者になることを夢見る可憐な少女

マハディエ ザンジャニさん/Mahadieh Zanjani
(工学部医用生体工学科2年/出身:イラン・イスラム共和国)

大使館の参事官であるお父さんの転勤で幼いころから家族とともに各国を転々としているマハディエさん。お父さんの現在の駐在地である日本に来たのは4年前。他の国に比べ、ムスリム教徒に対しての差別がなく、安全で、人々がフレンドリーな日本の環境が特に気に入っているのだそう。

親族に医者が多く、物心がつくころには医療系に携わりたいと思っていましたが、日本に来た当初高校生だった彼女は2年間をイラン学校で過ごし、東海大学への入学を決意。なんと彼女が在籍しているのは工学部! 将来は医療技術者として活躍することを夢見るマハディエさんは、「医療チームの一員として、患者の義手などを作成する義肢装具士になりたい」と語ります。

医療技術者になるためには工学知識も医療知識も兼ね備える必要があるので、身体の仕組みや筋肉の名前など、覚えることばかり。日本語での授業に四苦八苦しながら

「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介!
日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューさせてもらいます! さて、今回ご登場いただく留学生は……?

国旗を手にはほ笑む
マハディエさん(左)



らも、「教授がいつも気にしてくれているので困っていることはない」のだと。『多分、私が男の子だったら対応は違うのかも……』と苦笑い。

とっても家族思いの彼女は、週末には東京の家族のもとへ行き、授業日には下宿先に戻ってきます。東京を散策するのが好きで、休日はお父さんと一緒にランニングを楽しんでいるのだと。

『女の子らしく』ではなく、自分のことは自分でやり、自分らしくありなさい、と決して甘やかさずに育ててくれたお父さんのおかげで、幼いときから自立心が育まれていきました。

まもなくお父さんの駐在期間が終わり、母国に戻る時期。「私だけ日本に残ることを決めているの」と決意を口にしました。「専門分野を極めるために大学院に進み、日本の現場で学んだ後は母国で活躍したい」と目を輝かせました。

“ちえん”の路上観察学

学生街のトマソン

掲示門や東門へ向かう、崖沿いの近道

東海大学湘南キャンパスに行き着くには、どうやっても坂道を通らなければいけない。同じ坂を上るにしても、どうにかキャンパスまで最短で行く道はないか？と、学生たちはさまざまな“近道”を発見してきた。

バス通りの途中、こんなところに道が？というようなところに、掲示門や東門のほうに抜ける道がある。今回のトマソンは、この「真田34号線」である。

いったいどんな道なのか、交通工学や交通計画をご専門の工学部土木工学科の鈴木美緒准教授に伺った。

鈴木先生によると「これは平塚市の認定道路ですね」とのこと。どうやら計画されてできた道ではなく、民家ができるまで、家に行き着くために付随してできた道のようである。

工学部土木工学科
鈴木先生

「トマソン」とは、前衛芸術家、赤瀬川原平（1937年～2014年）の活動“路上観察学”の中から生まれた、変わったマンホールの蓋や看板、建築物や構造体など、意味は不明だが何かを語っている物体の意。



Information

トコラボシスターズからのお知らせとご案内

地域連携イベント・講座の会場はすべてTOKAIクロスクエアです

地域連携イベント

定期映画上映会「学前夕暮れシアター」

「ここではない、どこかと映像でつながる」をテーマとした学生による映画上映会。今年度も開催中！

日 時 第7回 11月15日(木)
第8回 12月20日(木)
第9回 2019年1月17日(木)

17:00開場／17:30開演～20:00終了予定
上映作品は決まり次第、クロスクエアのWEBページ等でお知らせします



主 催 文化社会学部広報メディア学科 水島研究室

定 員 各回30名程度

お申し込みは不要です。お気軽に立寄りください



学前夕暮れシアター公式Twitterでも
情報をお知らせしています

◀@gakumaetheater

ちえん川柳募集中！

地域と大学のつながりをテーマとした「ちえん川柳」を随時募集しています。選ばれた作品は本紙に掲載します。

応募は、メール・郵送・TOKAIクロスクエア川柳投函ボストンへ。たくさんのご応募お待ちしております。詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。

地域連携紙「ちえん」の設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館等約60カ所で配架しています！

■専用ラックの設置場所募集中！ 本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。TEL:0463-50-2406 E-mail:chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

にこにこ健康相談

血圧測定および保健師による健康相談を実施

日 時 10月26日(金) 13:00～15:30

主 催 東海大学健康推進センター湘南健康推進室

協 力 大根・鶴巻地域高齢者支援センター

入場無料です。お気軽に立寄りください



地域連携講座

駅前研究室へようこそ！

世界的な企業のブランド力や企業戦略に関する
学生たちの視点による研究成果を発表

日 時 11月12日(月) 18:00～19:30

主 催 政治経済学部経営学科 岩谷研究室

定 員 30名※要申し込み



TOKAIクロスクエア

〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名1-3-5

TEL ☎ 0463-78-5188 FAX ☎ 0463-78-5189

WEB ◀ https://coc.u-tokai.ac.jp/crossquare

